

- 再生可能エネルギーの活用：創エネ
- 建物の省エネルギーの徹底：省エネ
- 森林整備・保全によるCO₂吸収：固定

三重大学 キャンパスのカーボンニュートラル（土木測量編）

知っていますか？

102年前から測量実習を実施しています。

■ 排水工事实習の位置の把握による構内環境の保護

左の写真は三重大学の前身の三重高等農林学校時代の校舎付近での排水工事实習の様子です。溝の脇に測量機材が映り込んでおり、適切に排水されるように、高低差を測量していることが分かります。

位置は、左側の校舎とグラウンドのバックネットの配置から、校舎とグラウンドの境界付近を南から北へ向かって撮影したと推定されます。

また、キャンパス造成時の記録によると「校舎敷地の北半は小丘状をなし（中略）松林に覆われて（中略）高地を削り」※と記載されており、1920年の校舎の建築時に小高い地形を削平して造成したことによって、キャンパスが平坦になり、南から北へ排水路を敷設できたと推定されます。

この場所は、現在の教育学部校舎から生物資源学部の校舎付近に相当します。約0.8mの深さには、今も土管が残っている可能性があり、地下埋設物を把握することにより、適切な治水と地盤を含む構内環境の保護に努めています。



農場における排水工事 1924年（※200-201頁間の写真）

■ 土壌改良と土管

1923年に農場の土壌改良を目的として排水管の埋設工事实習が行われた際の様子です。

学生の背丈（約1.5m）ほどの深さのトレンチが掘削され、陶器製の土管が埋設されています。

現在の地下下のイメージ

0.6m（拡張時の造成）

0.4m（S19地盤沈下）

1.5m



三重大学マスコットキャラクター
ミールド

2050カーボンニュートラルに向けた取組計画

国立大学法人 三重大学
地球環境センター
施設部 2024年11月



排水工事实習（南から） 1924年（※178-179頁間の写真）

※三重高等農林学校『翠丘学園の十年』1932年



上空からの全景（北上空から）（※110-111頁間の写真）



上浜キャンパス航空写真（2024年5月4日撮影）編集・発行 国立大学法人三重大学 地球環境センター
2026年7月